

○計画期間：平成27年3月～平成32年3月（5年）

I. 中心市街地全体に係る評価

1. 平成30年度終了時点（平成31年3月31日時点）の中心市街地の概況

平成30年度は、主要事業である「中町モール改修事業」のほか、「日和山公園環境整備事業」、「街なかサイン整備事業」が完了し、区域内の拠点整備と、拠点間の回遊を促す取組が進展した。ハード整備に加え、中町モールでは民間事業者によるイベント等を定期的を実施することで、恒常的なにぎわいの創出を図っている。

また、中町地区に「酒田産業振興まちづくりセンター（愛称サンロク）」がオープン。コワーキングスペースを整備し、地域のニーズとシーズのマッチング、不動産オーナーへ貸す意思を持ってもらえるような仕掛けづくりを行いながら、36 キッチン・高校生レストラン等のソフト事業にも取り組むことで、空き店舗対策及びにぎわい創出に取り組んでいる。

しかしながら、「山居倉庫周辺整備事業」、「旧割烹小幡改修事業」等の主要事業については、活用方針の見直し等により事業の進捗に遅れが生じており、「酒田駅前地区第一種市街地再開発事業」、「酒田中町二丁目地区第一種市街地再開発事業」といった市街地再開発事業についても、事業費高騰等による事業の見直しから進捗に遅れが生じている。このため、「歩行者・自転車通行量」及び「観光施設入込数」の二指標については基準値割れの状況が続く等、観光施設間の回遊性、商店街への波及効果、民間投資の促進という面ではまだまだ課題が多く、中心市街地の活性化には至っていない。

【中心市街地の状況に関する基礎的なデータ】（基準日：毎年度1月1日）

（中心市街地 区域）	平成26年度 （計画前年度）	平成27年度 （1年目）	平成28年度 （2年目）	平成29年度 （3年目）	平成30年度 （4年目）
人口	2,627	2,598	2,565	2,537	2,473
人口増減数	-55	-30	-53	-29	-41
自然増減数	-37	-41	-46	-35	-27
社会増減数	-18	11	-7	6	-14
転入者数	80	75	73	59	59
転出者数	98	64	80	53	73

※人口については、当該年度1月1日（基準日）時点の数値。人口増減数・自然増減数・社会増減数・転出入者数については、基準日までの1年間の変動数。

2. 平成 30 年度の取組等に対する中心市街地活性化協議会の意見

中心市街地の活性化の目標である①中心商店街の活性化、②街なか観光の推進、③街なか交流人口の増進の3つの目標に向かって、酒田市をはじめ関係機関・団体がハード事業の整備からソフト事業に幅広く取り組んでいる。

概況としては、平成27年から取り組んでいる中心市街地活性化基本計画は、4年目が終了した。この間、新市庁舎、屋台村、中町にぎわい健康プラザが完成し、駅前の再開発も進むほか、平成30年度には中町モールが完成する等、中町のにぎわい創出に寄与する新産業会館の再開発も工事着工に向け進んでいる。

今後、中心市街地活性化協議会としては、目標達成に向けて新たにストックされた資源の活用とネットワーク化をさらに推し進めるとともに、「荒波を越えた男たちの夢が紡いだ異空間～北前船寄港地・船主集落～」の日本遺産登録、「鳥海山・飛島ジオパーク」の日本ジオパーク認定、ニュージーランド・トライアスロン競技の東京オリンピック・パラリンピックホストタウン登録に加え、「新潟県・庄内エリアデスティネーションキャンペーン」や酒田港への大型クルーズ船の寄港増を追い風に、ソフト面の課題と対応策を再度検討し、関係団体の自らの役割と活動を含め、湊町らしい特色を活かした商店街振興と、観光誘客による交流人口の拡大や街なかへの誘導に繋げる取り組みを行う必要があると考えている。

II. 目標毎のフォローアップ結果

1. 目標達成の見通し

目標	目標指標	基準値	目標値	最新値	基準値からの改善状況	前回の見通し	今回の見通し
中心商店街の活性化	歩行者・自転車通行量	2,718 人 (H26)	2,779 人 (H31)	2,366 人 (H30)	C	②	④
	商店街空き店舗数	99 件 (H26)	83 件 (H31)	98 件 (H30)	B	②	②
街なか観光の推進	観光施設入込数	1,571,285 人 (H25)	1,648,000 人 (H31)	1,456,984 人 (H29)	C	④	④
街なか交流人口の増進	公共・公益施設利用者数	363 人 (H25)	953 人 (H31)	608 人 (H30)	B	①	②
	居住人口 (参考指標)	2,651 人 (H26)	2,651 人 (H31)	2,485 人 (H30)	C	①	②

<基準値からの改善状況>

A：目標達成、B：基準値達成、C：基準値未達成

<取組の進捗状況及び目標達成に関する見通しの分類>

- ①取組（事業等）の進捗状況が順調であり、目標達成可能であると見込まれる。
- ②取組の進捗状況は概ね予定どおりだが、このままでは目標達成可能とは見込まれず、今後対策を講じる必要がある。
- ③取組の進捗状況は予定どおりではないものの、目標達成可能と見込まれ、引き続き最大限努力していく。
- ④取組の進捗に支障が生じているなど、このままでは目標達成可能とは見込まれず、今後対策を講じる必要がある。

2. 目標達成見通しの理由

「歩行者・自転車通行量」

最新値は、基準値と比較して 12.9% (352 人) 悪化しており、前年度比では 5.8% (147 人) 悪化、3 調査地点全てで前年度値を下回った。特に、歩行者・自転車通行量調査で半数近くを占める中町モール地点において、「中町モール改修事業」の工事が完了したものの、通行量の改善に繋がっていない。また、中町地区における「酒田中町二丁目地区第一種市街地再開発事業」、駅前地区における「酒田駅前地区第一種市街地再開発事業」、「酒田コミュニケーションポート(仮称)整備事業」といった再開発事業については、事業費高騰等により設計等の見直しを余儀なくされたことから進捗が遅れが生じている。中町地区と駅前地区の中間に位置する大通り商店街についても、各拠点の整備遅延、拠点間の結びつけが弱いこともあり歩行者・自転車通行量の減少傾向に歯止めがかからない状態となっていることから、目標達成見通しを④とした。

「商店街空き店舗数」

最新値は、基準値と比較して 1 件改善し、前年度比では 5 件の改善がみられた。平成 30 年度は、「産業振興まちづくりセンター(仮称)整備・運営事業」により産業振興、農商工連携の推進、若者・女性の活躍促進を目指すとともに地場産業の活性化を促すことを目的とした「酒田産業振興まちづくりセンター(愛称サンロク)」がオープン。地域のニーズとシーズのマッチング、不動産オーナーが貸す意思を持ってもらえるような仕掛けを行っているものの、不動産オーナー側の「住居併用のため」、「貸すための修繕に費用がかかる」等の理由により、貸す意思のない空き店舗が 30 店舗弱ある状況が主な課題となっている。今後もセンターによるミスマッチング解消に取り組むとともに、再開発事業の着実な推進により民間投資を誘引していく必要があることから、目標達成見通しを②とした。

「観光施設入込数」

最新値は、基準値と比較して 7.2% (114,301 人) 悪化している。平成 29 年度は、大型クルーズ船の寄港や、「荒波を越えた男たちの夢が紡いだ異空間～北前船寄港地・船主集落～」の日本遺産認定を受けたものの、計測対象 15 施設の内 10 施設で前年度値を下回った。このうち、8 施設では基準値も下回っており、基準値及び前年度値を上回る施設は一部に留まっている。市全体の観光客が減少している中で、区域内での観光客の回遊が不足していること、また主要事業の活用方針見直し等、検討に時間を要したことから、目標達成見通しを④とした。

「公共・公益施設利用者数」

最新値は、基準値と比較して 67.5% (245 人) 増加した。中町庁舎においては、光丘文庫の機能移転、マザーズジョブサポートセンター庄内が開設され、市役所新庁舎 1 階においても、障がい者就労支援カフェ「え～る」がオープンする等、幅広い年齢層に来街してもらうきっかけとなっている。一方で目標値達成に向けては、主要施設のひとつである「さかた街なかキャンパス」が老朽化等の問題から平成 30 年度末で閉館したこともあり、目標達成見通しを②とした。

「居住人口(参考指標)」

最新値は、基準値と比較して 6.2% (166 人) 減少しており、前年度値と比較しても 3.0%

(77人)減少した。特に社会増減を上回って自然減が推移していることに加え、中心市街地域外での大規模宅地造成の動き等から目標達成見通しを②とした。

3. 前回のフォローアップと見通しが変わった場合の理由

「歩行者・自転車通行量」については、主要事業である「中町モール改修事業」等の整備が完了したにもかかわらず、周辺商店街や、観光施設、拠点間の回遊が不足していたことから、目標達成見通しを②と見込んでいた。改善に向けて、回遊性や滞留性、イベント利便性を高めるための機能（子ども水遊び施設や大屋根の整備等）を追加導入するほか、中町地区におけるクルーズ船寄航時の歓迎イベント充実や、「さかた大繁盛ハロウィンまつり」等のイベントを実施するも、恒常的な賑わいには至っていない。加えて中町・駅前両地区における再開発事業でも事業費高騰、設計見直し等に時間を要する等、事業の進捗に遅れが生じ、今後さらに対策を講じる必要があることから今回④と評価した。

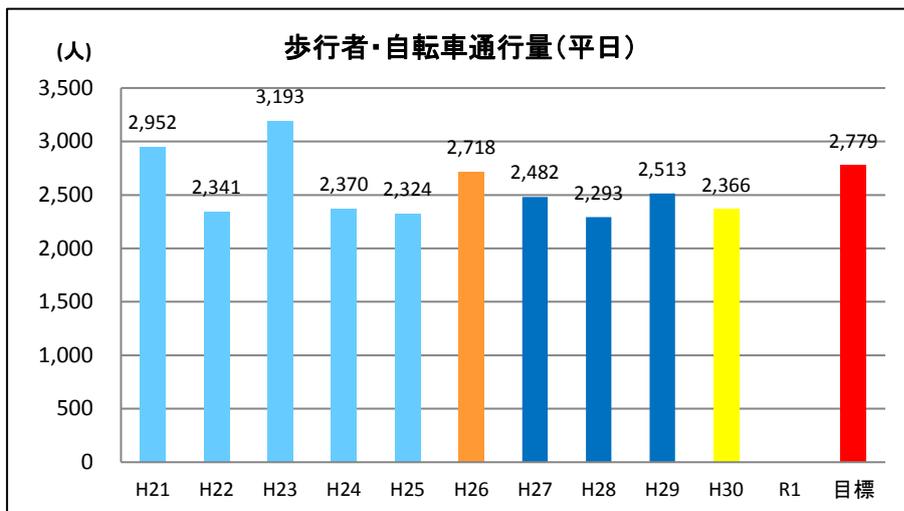
「公共・公益施設利用者数」については、平成29年度のフォローアップにおいて、計画事業が順調に推移していたことから目標達成見通しを①と見込んでいた。しかしながら、ほとんどの主要事業が完了した平成30年度においても、当初見込んでいた利用者を確保できなかったことに加え、商工会議所が空き店舗を改装し運営していた「さかた街なかキャンパス」が、市内大学生利用者の減少、施設の老朽化といった問題等から平成30年度末で閉館したことにより今回②と評価した。

「居住人口（参考指標）」については、平成29年度のフォローアップにおいて、県外からの転入者増により、中心市街地の人口の減少に一定程度の歯止めがかかり、民間事業者によるアパート等の居住整備関連の開発が行われたことから目標達成見通しを①と見込んでいたが、中心市街地域外の大規模な宅地造成の動きとともに、年少人口及び生産年齢人口の減少傾向が平成31年1月の段階でも続いていることから今回②と評価した。

4. 目標指標毎のフォローアップ結果

「歩行者・自転車通行量（平日）」※目標設定の考え方基本計画 P. 70～P. 73 参照

●調査結果の推移



年	(人)
H26	2,718 (基準年値)
H27	2,482
H28	2,293
H29	2,513
H30	2,366
R1	
R1	2,779 (目標値)

※調査方法：歩行者・自転車通行者、毎年4月の第4火曜日に3地点において7～19時で計測

※調査月：平成30年5月（調査対象地点の一つである中町モールにおいて、中町モール改修事業が4月第4火曜日時点で工事が完了しておらず通行不可能な状態だったことから、工事完了の約1ヶ月後に調査を実施したもの。）

※調査主体：酒田市

※調査対象：中心市街地内の3地点における歩行者及び自転車の通行量
[ジャスコ跡地前、大通り商店街、中町モール]

●目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

①. 中町モール改修事業（酒田市）

事業実施期間	平成27年度～平成30年度【済】 [認定基本計画：平成27年度～平成29年度]
事業概要	中心商店街のシンボリック歩行者専用道路をリニューアル改修し、イベント広場機能や憩いの場としての快適な公共空間として強化整備を行うもの。
国の支援措置名及び支援期間	社会資本整備総合交付金 (都市再生整備計画事業(湊酒田中心市街地地区(第2期))) (国土交通省)(平成27年度～平成29年度)
事業効果及び進捗状況	平成27年度に設計業務を行い、平成29年に工事着工したが、地質調査の結果、大屋根の設計に変更が生じた。このため工事完了が当初予定から1ヶ月遅れ、平成30年4月に完成した。 本事業により20人/日の歩行者通行量増加を見込む。
事業の今後について	モールの路面改修に加え、回遊性や滞留性、イベント利便性を高めるための機能(子ども水遊び施設や大屋根の整備等)を追加した。 クルーズ船の寄港時には、ふ頭との間にシャトルバスを運行し、甲

	<p>冨の着付け体験等の各種イベント実施や、隣接する中町にぎわい健康プラザと一体となった利活用を進めていくことにより、来街機会の増加、街なかの回遊に繋げることで、歩行者通行量の増加を図る。</p>
--	--

②. にぎわい交流施設整備事業（市庁舎併設）（酒田市）

事業実施期間	平成25年度～平成29年度【済】
事業概要	市庁舎の新築工事にあわせ、庁舎内へにぎわい交流施設を整備。中心市街地の各エリアへの回遊性向上及び周辺エリアと連携したにぎわい創出を推進するもの。
国の支援措置名及び支援期間	社会資本整備総合交付金 (暮らし・にぎわい再生事業（酒田市中心市街地地区）) (国土交通省)（平成25年度～平成29年度）
事業効果及び進捗状況	平成27年12月：市役所新庁舎第1期工事完了 平成29年6月：2期工事完了 平成30年3月：付帯駐車場や外構整備が完了 本事業により歩行者・自転車通行量109人増、施設利用者260人増を見込む。施設入館者数は110人/日に留まっているものの、中町方面玄関の利用は出館が入館を上回っており、にぎわい交流サロンやフリースペースを利用し、中町方面へ周遊する形が出来上がりつつある。
事業の今後について	新庁舎内に整備した「にぎわい交流サロン」において、観光パンフレットやイベント情報の掲示を行うことで、来街者が待ち合わせ等で気軽に利用し、街なかの回遊に繋がるよう、市民交流や情報発信の場として提供していく。

③. 中町にぎわいプラザ（仮称）整備事業（酒田市）

事業実施期間	平成27年度～平成28年度【済】
事業概要	大型商業施設跡の空きビルを再生し、市民交流や街なか回遊のための集いのスペースと、健康づくりの拠点となる健康増進スペースを整備するもの。
国の支援措置名及び支援期間	社会資本整備総合交付金 (暮らし・にぎわい再生事業（酒田市中心市街地中町地区）) (国土交通省)（平成27年度～平成28年度）
事業効果及び進捗状況	平成29年4月に「中町にぎわい健康プラザ」としてオープンし、健康増進スペースのほか、集いのスペースとして、健康・スポーツ関連の講習会、コンサート等、多岐にわたって利用され、中町エリアのにぎわい創出に寄与している。 平成29年度利用者数：53,350人/年 平成30年度利用者数：62,221人/年 本事業により84人/日の歩行者通行量増加を見込む。

事業の今後について	<p>隣接する中町モール改修事業が平成30年4月に完了したことから、今後はイベント等のソフト事業による活用や、他の計画事業との連携により、にぎわい創出のための工夫ある運用を図っていくことで、通行量の増加につなげていく。</p> <p>中町モール改修事業では、路面改修に加え、回遊性や滞留性、イベント利便性を高めるための機能が追加導入され、「くまの学校キャラバンイベント」、「中町スポーツフェスタ」等のイベントが実施された。引き続き隣接する中町モールと一体となった利活用を進めていくことにより、来街機会の増加、街なかの回遊に繋げることで、歩行者通行量の増加を図る。</p>
-----------	---

④. 食のさかたチャレンジ事業（酒田北前横丁屋台村運営協議会）

事業実施期間	平成27年度～令和元年度【実施中】
事業概要	飲食業を志す人を対象に、安価な家賃でのトライアル店舗の開設を実施し、将来の担い手育成、にぎわい創出を行うもの。
国の支援措置名及び支援期間	地域商業自立促進事業（経済産業省）（平成27年度）
事業効果及び進捗状況	<p>平成27年10月：酒田柳小路「北前横丁」屋台村が開業 平成28年4月：10店舗全てが入居しグランドオープン 平成29年10月：二周年を迎え、来客数10万人を達成 平成30年10月：三周年を迎え、来客数15万人を達成 平成30年12月：第二期グランドオープン、10店舗中、3店舗が新規出店</p> <p>本事業により94人/日の歩行者通行量増加を見込む。</p>
事業の今後について	市内外を問わず多くの来客があり、工夫あるイベントを企画・実施する等、まちのにぎわいと活性化を意識した運営を行っており、引き続き来街機会の拡大、にぎわいの創出を図る。

⑤. 花と緑のまちづくり事業（酒田市）【平成30年度追加】

事業実施期間	平成30年度～令和元年度【実施中】
事業概要	彩り豊かな花と緑による市街地の美化事業の実施
国の支援措置名及び支援期間	中心市街地活性化ソフト事業（総務省）（令和元年度）
事業効果及び進捗状況	<p>平成30年度：3回開催（5,7,9月）</p> <p>市役所玄関だけでなく、中町モールへの設置等を行い、来街機会の増加と来街者へのおもてなしの機運を高めることに寄与している。</p>
事業の今後について	市民、事業者、行政の協働による、まちづくりへの取組の一環として、市民参画により製作するフラワーバスケットを設置するとともに、設置場所の拡大等により街なかの魅力、回遊性を向上させる。

⑥. 産業会館多目的ホール・情報センター（仮称）整備事業（個人施行者）

【平成30年度追加】

事業実施期間	令和元年度～令和2年度【実施中】
事業概要	市民と企業との協働、交流の場となるホール等の整備
国の支援措置名及び支援期間	社会資本整備総合交付金 （暮らし・にぎわい再生事業（酒田市中心市街地中町地区（第2期）））（国土交通省）（令和元年度）
事業効果及び進捗状況	令和元年度：既存建物解体予定 令和元年度：着工予定 令和2年度末：竣工予定
事業の今後について	事業の着実な推進により、市民と企業との協働の場、交流の場となる多目的センターを整備し、来街機会の拡大、にぎわいの創出を図る。

●目標達成の見通し及び今後の対策

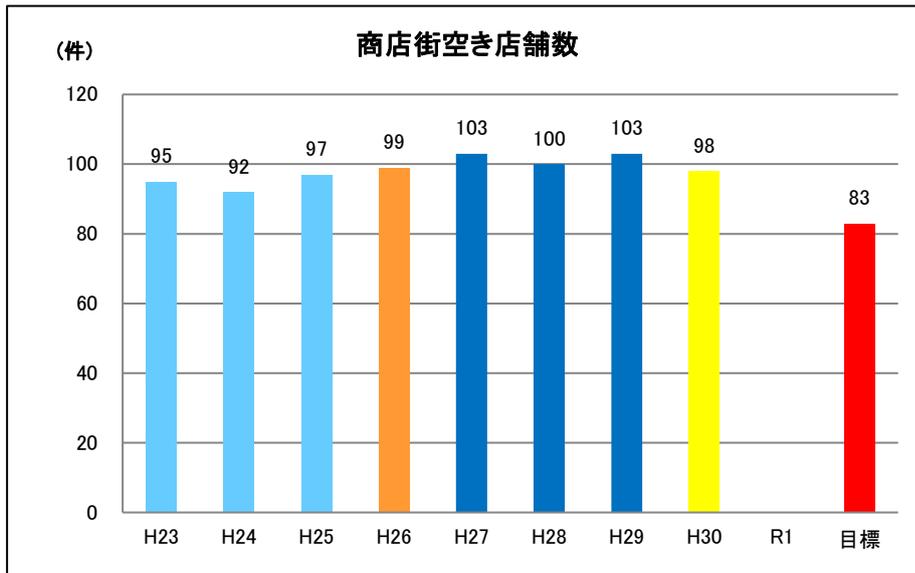
主要事業は概ね完了したが、最新値は基準値と比較して12.9%（352人）悪化しており、前年度値と比較しても5.8%（147人）悪化、3調査地点全てにおいて前年度値を下回っており、このままでは目標達成可能とは見込まれない。一方で、「中町にぎわいプラザ」のように施設としての利用者数は前年度を上回る成果となっていることから来館者を回遊させる仕組みづくりが必要である。

今後は、これまでの事業により整備された「中町にぎわいプラザ」、「北前横丁屋台村」、高齢者向け住宅「てとて中町」、地元百貨店におけるフードコート整備事業等と中町モールを繋ぐことで周辺施設との相乗的なにぎわい創出を図るとともに、来街機会の増加と来街者へのおもてなしの機運を高める「花と緑のまちづくり事業」を実施していく。

また、駅前地区においては、拠点となる「酒田駅前地区第一種市街地再開発事業」、「酒田コミュニケーションポート（仮称）整備事業」を着実に推進し、中心市街地における都市機能を再生、来街者や居住人口の増加、中心市街地の価値向上を図ることで、民間投資を促していく必要がある。中町地区についても、「酒田中町二丁目地区第一種市街地再開発事業」、「産業会館多目的ホール・情報センター（仮称）整備事業」を着実に推進することにより、市民と企業との協働の場、地域住民の交流の場となる多目的センターを整備することで、中町地区の再生を目指す。

「商店街空き店舗数」 ※目標設定の考え方基本計画 P. 73～P. 76 参照

●調査結果の推移



年	(件)
H26	99 (基準年値)
H27	103
H28	100
H29	103
H30	98
R1	
R1	83 (目標値)

※調査方法：商店街の空き店舗、毎年8月に5商店街において現地調査

※調査月：平成30年8月

※調査主体：酒田市

※調査対象：中心市街地内の5商店街における空き店舗数

[中町中和会商店街、中通り商店街、大通り商店街、酒田駅前商店街、協同組合たくみ銀座]

●目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

①. 空き店舗改装助成事業（酒田市）

事業実施期間	平成18年度～平成29年度【済】 [認定基本計画：平成18年度～]
事業概要	空き店舗を活用して新規に開業する者、又は当該店舗を賃貸する者に改装費を助成し、空き店舗への出店を促進するもの。
国の支援措置名及び支援期間	中心市街地活性化ソフト事業（総務省）（平成27年度～平成29年度） 地方創生推進交付金（内閣府）（平成30年度～31年度） [認定基本計画：中心市街地活性化ソフト事業（総務省）平成27年度～平成31年度]
事業効果及び進捗状況	各種商店街振興サービスのワンストップ化を図り、官民連携によって開設された中心市街地まちづくり推進センターが事業を展開。目標指標の対象となる商店街においては、平成28年度6店舗、平成29年度8店舗へ交付。 平成30年度からは個人、企業間のニーズを繋ぐ「酒田産業振興まちづくりセンター（愛称サンロク）」の開業支援補助金に包含され、交付実績15店舗と、空き店舗数の増加防止に寄与している。 目標設定時の事業効果では「空き店舗入居者支援事業」と合わせ、空き店舗数の減少15店舗を見込む。

事業の今後について	「酒田産業振興まちづくりセンター（愛称サンロク）」による、空き店舗を活用した新規開業、当該店舗の所有者への改装費助成により空き店舗への出店を促進し、空き店舗解消による商店街の魅力向上と活性化を図る。
-----------	---

②. 空き店舗入居者支援事業（酒田市）

事業実施期間	平成13年度～平成30年度【済】 [認定基本計画：平成13年度～]
事業概要	空き店舗を活用して新規に開業する者の賃貸借料を助成し、空き店舗への出店を促進するもの。
国の支援措置名及び支援期間	中心市街地活性化ソフト事業（総務省）（平成27年度～平成30年度） [認定基本計画：中心市街地活性化ソフト事業（総務省）（平成27年度～平成31年度）]
事業効果及び進捗状況	各種商店街振興サービスのワンストップ化を図り、官民連携によって開設された中心市街地まちづくり推進センターが事業を展開。 目標指標の対象となる商店街においては、平成28年度4店舗、平成29年度は6店舗へ交付。平成30年度は支援なし。 目標設定時の事業効果では「空き店舗改装助成事業」と合わせ、空き店舗数の減少15店舗を見込む。
事業の今後について	「空き店舗改装助成事業」、「酒田産業振興まちづくりセンター（愛称サンロク）」の取組により、出店後の負担軽減、マッチング解消等、持続性のある創業を支援していく。

③. 創業促進事業（酒田市・酒田商工会議所）

事業実施期間	平成26年度～平成30年度【済】
事業概要	創業支援センターを開設し、創業相談のワンストップ化や創業塾等を実施し、空き店舗の活用を含めた新規開業を促進するもの。
国の支援措置名及び支援期間	創業支援事業（経済産業省）（平成26年度～平成30年度）
事業効果及び進捗状況	平成26年9月開設の創業支援センターでは、創業支援コーディネーターがワンストップで対応したほか、開業後のフォローアップも行い、多くの相談が寄せられた。 目標指標の対象となる商店街においては、創業支援を受け、平成28年度8店舗、平成29年度8店舗が新規開業。平成30年度からは「酒田産業振興まちづくりセンター（愛称サンロク）」の創業支援事業に包含され、13店舗が開業。 目標設定時の事業効果では、空き店舗数の減少5件を見込む。
事業の今後について	創業塾の開催や、専門家相談を引き続き実施していくことで、空き店舗解消・商店街の魅力向上と活性化を図る。

④. 産業振興まちづくりセンター（仮称）整備・運営（酒田市）【平成29年度追加事業】

事業実施期間	平成29年度～【実施中】
事業概要	企業間の交流を図る拠点となる、産業振興まちづくりセンター（仮称）整備・運営するもの。
国の支援措置名及び支援期間	地方創生推進交付金（内閣府）（平成29年度～令和元年度）
事業効果及び進捗状況	地場企業、農林水産事業者及び市内の個人・グループのニーズとシーズを集め、「つなぐ」ことにより、産業振興、農商工連携の推進、若者・女性の活躍促進を目指すとともに、企業間の交流を図るための拠点として、平成30年6月グランドオープン。中心市街地に拠点を置くことで、産業の活性化、交流人口の増加が見込まれ、新たな出店が期待される。
事業の今後について	地域のニーズとシーズのマッチング、不動産オーナーが貸す意思を持ってもらえるような仕掛けを行いながら、コワーキングスペースの整備のほか、36（サンロク）キッチン・高校生レストラン等のソフト事業にも取り組むことで、産業の活性化、交流人口の増加が見込まれ、新たな出店が期待される。

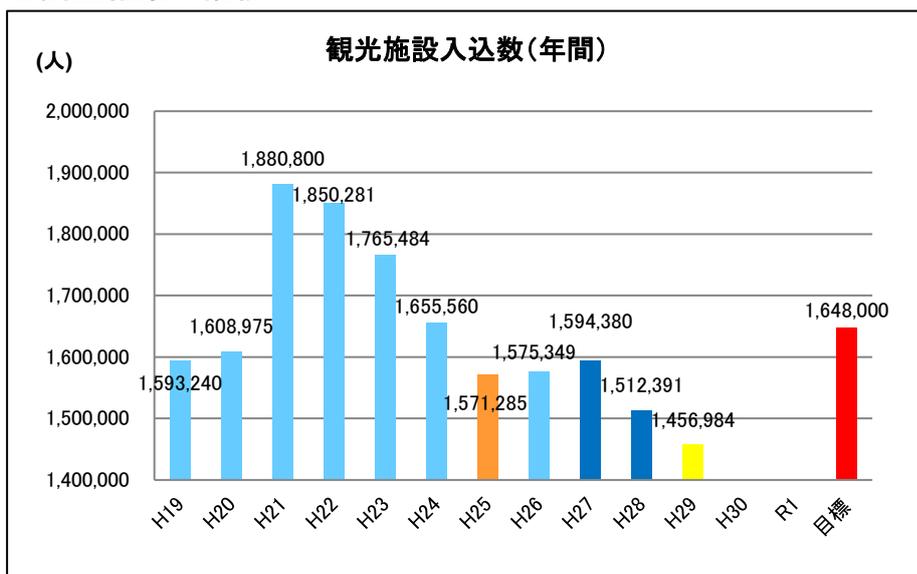
●目標達成の見通し及び今後の対策

最新値は基準値と比較して、1件改善し、前年度比では5件の改善がみられた。創業支援制度を活用した居抜き物件への入居の増加とあわせて、中心市街地にこれまでなかった業種をはじめとした新たな店舗の出店が増えてきている。平成30年6月にグランドオープンした「酒田産業振興まちづくりセンター（愛称サンロク）」では、地域のニーズとシーズのマッチング、不動産オーナーが貸す意思を持ってもらえるような仕掛けとともに開業支援を行う等、取組の進捗状況は概ね予定通りとなっている。

一方で、不動産オーナー側の「住居併用のため」、「貸すための修繕に費用がかかる」等の理由により、貸す意思がない空き店舗が30店舗弱あることから、引き続きセンターによるミスマッチング解消に取り組むとともに、屋台村をはじめとした施設の魅力を牽引役とし、中町地区及び駅前地区における再開発事業の着実な推進による経済効果や都市機能の向上を図り、民間投資を誘引していく必要がある。

「観光施設入込数」 ※目標設定の考え方基本計画 P. 76～P. 79 参照

●調査結果の推移



年	(人)
H25	1,571,285 (基準年値)
H26	1,575,349
H27	1,594,380
H28	1,512,391
H29	1,456,984
H30	
R1	
R1	1,648,000 (目標値)

※調査方法：観光施設への入込数、毎年度の実績（累計）を15施設で聞き取り調査

※調査月：平成29年4月

※調査主体：酒田市

※調査対象：中心市街地内の15施設における入込数

[山居倉庫（酒田夢の倶楽）、さかた海鮮市場、みなと市場、旧白崎医院、旧鋸屋、海洋センター、山王くらぶ、本間家旧本邸、庄内米歴史資料館、海向寺、相馬楼、資料館、NKエージェント（旧割烹小幡）、山居館、本間美術館]

●目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

①. 山居倉庫周辺整備事業（酒田市）

事業実施期間	平成27年度～令和元年度【実施中】
事業概要	本市で最大の観光入込数を誇り、シンボルである山居倉庫の周辺にある低・未利用地において、山居倉庫と一体的な環境整備を行うもの。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業効果及び進捗状況	平成27年度に本市で策定した「中長期観光戦略」との整合性、市民意見や民間活力を生かした整備内容の検討の必要性、また、山居倉庫を史跡に指定する方針としたことによる事業内容の見直しから、事業進捗に遅れが生じている。 目標設定時の事業効果では、観光入込数の増加36,500人を見込む。
事業の今後について	山居倉庫周辺（山居倉庫・旧商業高校跡地・消防本署跡地）の一体的な整備に向け、民間と連携した公共空間の活用事業の構築・取組を進め、観光入込客数の増加を図る。

②. 旧割烹小幡改修事業（酒田市）

事業実施期間	平成28年度～令和3年度【実施中】 [認定基本計画：平成28年度～平成31年度]
事業概要	映画「おくりびと」のロケ地として注目を集め、その建物の持つ歴史的、文化的価値が見直されている旧割烹小幡を改修し、新たな観光拠点として整備するもの。
国の支援措置名及び支援期間	地方創生推進交付金（内閣府）（平成31年度～令和3年度） [認定基本計画：国の支援措置なし]
事業効果及び進捗状況	平成27年度：中長期観光戦略策定 平成28年度：市民ワークショップ実施 平成29年度：保存活用方針決定、市民説明会実施 令和元年度：運営予定者決定予定 令和2年度：改修工事完了予定 目標設定時の事業効果では、観光入込数の増加25,000人を見込む。
事業の今後について	酒田の「食」を提供するためのレストランや、日和山公園を訪れた市民や観光客が立ち寄り、買い物等、市の歴史や文化に触れることの出来る施設として整備し、観光入込客数の増加を図る。

③. 中心市街地循環バス運行事業（酒田市）

事業実施期間	平成27年度【済】 [認定基本計画：平成27年度～平成31年度]
事業概要	公共交通機能を充実させ、中心市街地内の回遊性向上を図るための社会実験として、拠点施設や観光施設を巡回するバスを運行するもの。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業効果及び進捗状況	社会実験として平成27年度に事業を実施し、136日間でバス運行を実施。累計3,159人が利用し、全体の約59%が中心市街地内の停留所で乗降しており、観光客の回遊性向上に寄与した。
事業の今後について	エリア間の公共交通見直しによる回遊性の向上を図っていく必要がある。

④. みなと市場まつり事業（酒田市みなと市場テナント会）

事業実施期間	平成27年度～令和元年度【実施中】
事業概要	港エリアの観光拠点のひとつである「酒田みなと市場」を生かし、みなとオアシスならではのイベントを開催するもの。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし

事業効果及び進捗状況	平成 27 年度から酒田市みなと市場テナント会の協力のもと、プロレス団体によるチャリティー大会を開催し、毎年 150 人前後の観客が訪れていたが、平成 30 年度は日程の調整がつかず実施できなかった。 目標設定時の事業効果では、観光入込数の増加 1, 000 人を見込む。
事業の今後について	みなとオアシスである港エリアへの誘客を図るため、引き続き魅力的なイベントを実施していく。

●目標達成の見通し及び今後の対策

最新値（平成 29 年度累計）は、基準値と比較して 7.2%（114,301 人）減少、観光施設全体で入込客数が減少していることから、このままでは目標達成は難しく、対策を講じる必要がある。

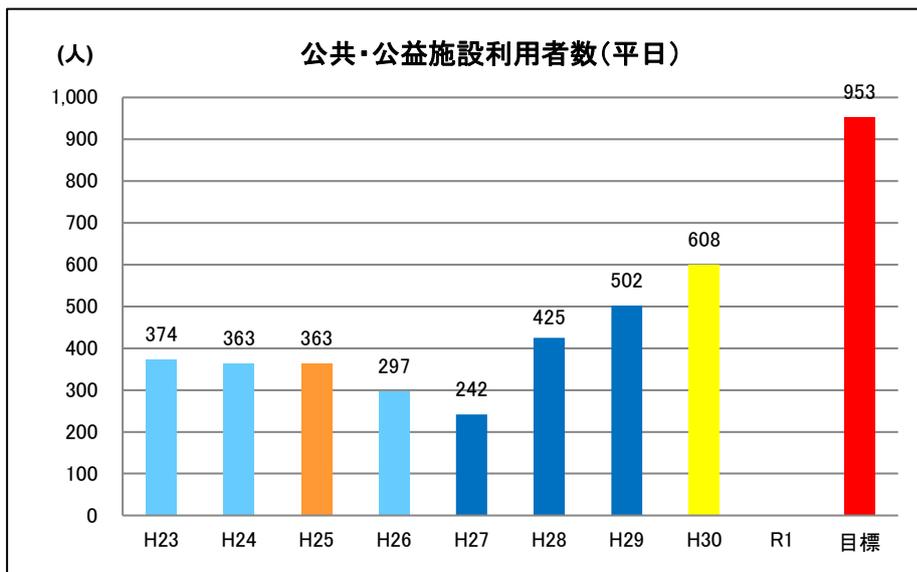
鳥海山・飛島ジオパーク等の市の資源を生かした観光政策や、交流友好都市の締結、クルーズ船の寄港等、観光面での政策の実施により、新規の観光客の獲得に努めているものの、観光客数の増加には至っていないため、認知度を高めるとともに、平成 30 年度に完成した「街なかサイン事業」による観光ルートの発信や、「花と緑の街づくり事業」による来街者へのおもてなしの機運を高める取組により、観光施設間の回遊性向上を図る。

旧割烹小幡改修事業については、レストラン等の観光拠点を整備し、山居倉庫周辺整備事業については、山居倉庫周辺（山居倉庫・旧商業高校跡地・消防本署跡地）の一体的な整備に向け、民間と連携した公共空間の活用事業の構築・取組を進めていく。

また、本市の観光産業を活性化させるための新組織を設立、市中心部に点在する観光施設を回遊してもらいイベントや取組を実施していく。

「公共・公益施設利用者数（平日）」※目標設定の考え方基本計画 P. 79～P. 81 参照

●調査結果の推移



年	(人)
H25	363 (基準年値)
H26	297
H27	242
H28	425
H29	502
H30	608
R1	
R1	953 (目標値)

※調査方法：公共・公益施設の利用者、毎年9月の第2火曜日に5施設において計測

※調査月：平成30年9月

※調査主体：酒田市

※調査対象：中心市街地内の5施設における利用者数

[交流ひろば、街なかキャンパス、市庁舎（にぎわい交流施設併設）、中町庁舎（改修整備）、中町にぎわい健康プラザ]

●目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

①. 中町にぎわいプラザ（仮称）整備事業（酒田市）

事業実施期間	平成27年度～平成28年度【済】
事業概要	大型商業施設跡の空きビルを再生し、市民交流や街なか回遊のための集いのスペースと、健康づくりの拠点となる健康増進スペースを整備するもの。
国の支援措置名及び支援期間	社会資本整備総合交付金 (暮らし・にぎわい再生事業（酒田市中心市街地中町地区）) (国土交通省)（平成27年度～平成28年度）
事業効果及び進捗状況	平成29年4月に「中町にぎわい健康プラザ」としてオープンし、健康増進スペースのほか、集いのスペースとして、健康・スポーツ関連の講習会、コンサート等、多岐にわたって利用され、中町エリアのにぎわい創出に寄与している。 平成29年度利用者数：53,350人/年 平成30年度利用者数：62,221人/年 本事業により200人/日の利用者増加を見込む。
事業の今後について	隣接する中町モール改修事業が平成30年4月に完了したことから、今後はイベント等のソフト事業による活用や、他の計画事業

	<p>との連携により、にぎわい創出のための工夫ある運用を図っていくことで、利用者の増加につなげていく。</p> <p>中町モール改修事業では、路面改修に加え、回遊性や滞留性、イベント利便性を高めるための機能が追加導入され、「くまの学校キャラバンイベント」、「中町スポーツフェスタ」等のイベントが実施された。引き続き隣接する中町モールと一体となった利活用を進めていくことにより、市民交流の場として定着させ、利用者の増加を図る。</p>
--	--

②. 中町庁舎改修事業（酒田市）

事業実施期間	平成30年度～令和元年度【実施中】
事業概要	中心商店街に隣接する空き庁舎予定の公的不動産を有効活用し、市民活動や文化活動等の拠点としてリニューアル整備するもの。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業効果及び進捗状況	<p>平成28年度、地域の歴史書等を収蔵する光丘文庫が老朽化に伴い機能を移転。</p> <p>平成29年度、マザーズジョブサポートセンターが入居し、働きたいがブランクのある方、仕事と家庭・子育てと両立できるか悩んでいる方、子どもの預け先の情報がほしい方等、一人ひとりのニーズに応じた総合相談を行っており、子育て世代が街なかに来るきっかけとなっている。</p> <p>目標設定時の事業効果では、施設利用者数の増加130人/日を見込む。</p>
事業の今後について	空きスペースの活用について、引き続き市民活動や文化活動の様々な分野の活動拠点としての検討を行う。

③. にぎわい交流施設整備事業（市庁舎併設）（酒田市）

事業実施期間	平成25年度～平成29年度【済】
事業概要	市庁舎の新築工事にあわせ、庁舎内へにぎわい交流施設を整備。中心市街地の各エリアへの回遊性向上及び周辺エリアと連携したにぎわい創出を推進するもの。
国の支援措置名及び支援期間	<p>社会資本整備総合交付金 （暮らし・にぎわい再生事業（酒田市中心市街地地区）） （国土交通省）（平成25年度～平成29年度）</p>
事業効果及び進捗状況	<p>平成27年12月：市役所新庁舎第1期工事完了</p> <p>平成29年6月：2期工事完了</p> <p>平成30年3月：付帯駐車場や外構整備が完了</p> <p>本事業により歩行者・自転車通行量109人増、施設利用者260人増を見込む。平成30年度調査日の施設入館者数は110人/日</p>

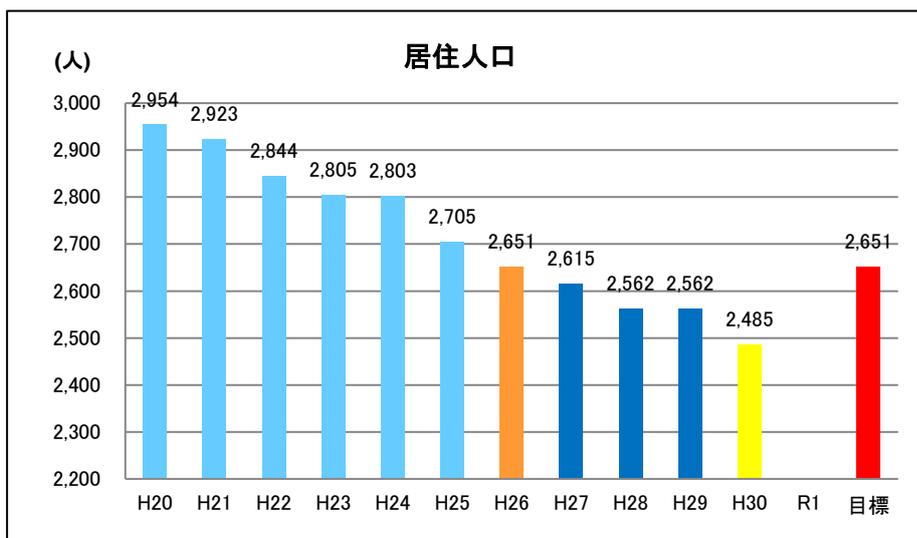
	に留まっているものの、中町方面玄関の利用は出館が入館を上回っており、にぎわい交流サロンやフリースペースを利用し、中町方面へ周遊する形が出来上がりつつある。
事業の今後について	新庁舎内に整備した「にぎわい交流サロン」において、観光パンフレットやイベント情報の掲示を行うことで、来街者が待ち合わせ等で気軽に利用できる市民交流スペースや情報発信の場として提供していく。

●目標達成の見通し及び今後の対策

最新値は、基準値と比較して67.5%（245人）増加したものの、想定した利用者数に届いていないことに加え、主要施設のひとつである「さかた街なかキャンパス」が老朽化等の問題から平成30年度末で閉館する等、このままでは目標達成は難しく、対策を講じる必要がある。「中町にぎわい健康プラザ」においては利用実績が着実に伸びていることから、市民交流や街なか回遊のための集いのスペースや、一階の扉をオープンにすることで、隣接する中町モールと一体的に活用できるメリットを活かし、健康関連イベントやサークル活動といった多様な市民活動やランチ会、ミーティング、勉強会等の交流を持続させていくことで、更なる利用者増を図る。

「居住人口（参考指標）」※目標設定の考え方基本計画 P. 81～P. 82 参照

●調査結果の推移



年	(人)
H26	2,651 (基準年値)
H27	2,615
H28	2,562
H29	2,562
H30	2,485
R1	
R1	2,651 (目標値)

※調査方法：居住人口、毎年9月末時点での住民基本台帳により12町丁で調査

※調査月：平成30年9月

※調査主体：酒田市

※調査対象：中心市街地内の12町丁における居住人口

[船場町一丁目、船場町二丁目、日吉町二丁目、幸町二丁目、二番町、中町一丁目、中町二丁目、中町三丁目、本町一丁目、本町二丁目、本町三丁目、山居町一丁目]

●目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

①. てとて中町整備事業（株福祉のひろば）【平成27年度追加】

事業実施期間	平成27年度【済】
事業概要	中心商店街に位置する空きビルを再生し、高齢者向け住宅やフィットネス施設、カフェ等の複合施設として整備するもの。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業効果及び進捗状況	高齢者向け住宅として20戸が整備され、現在14戸が入居。
事業の今後について	フィットネス施設やカフェ等の機能を有しており、中心商店街という立地環境もあわせ、世代を超えた地域コミュニティの増進に引き続き寄与していく。

●目標達成の見通し及び今後の対策

最新値は、基準値と比較して約6.2%（166人）減少しており、前年度値と比較しても3.0%（77人）減少している。これまで中心市街地では、県外からの転入者が転出者を上回り、人口が維持されていたが、新たに行われた区域外の宅地開発により、戸建てを希望する市民が流出したほか、市全体での人口減少、特に社会増減を上回って自然減が推移していることが大きな課題

となっている。

このような背景から、市全体の人口減少、中心市街地での著しい人口減少予想に対応していくため、中心拠点の再生・更新を図り、都市機能や居住環境の適正な立地を促進していく。